

チュクチ語の否定表現について

呉人徳司
(東京外国語大学)

0. はじめに¹⁾

動詞が表わす動作・行為を否定するのに、多くの言語では通常、述語動詞に否定小詞を用いて表わすか、否定接辞を用いて表わすかのいずれかである。例えば、その前者の例として、中国語では「我不去」のように「不」が、ロシア語では *On ne pojdjot* のように *ne* という否定小詞がそれぞれ用いられる。一方、後者の例として、日本語では「私ハ行カナイ」のように否定接尾辞「-ナイ」が、またユカギール語では *el-uu-jey* のように否定接頭辞 *el-* が用いられる。

チュクチ語²⁾の否定表現には、この2種類の方法の両方が用いられる。すなわち、否定小詞を用いることも、動詞の語幹に否定接辞を用いることも可能である。否定小詞には5種類、否定接辞には2種類の形式がある。これらはまた主語の人称、述語動詞がとる時制などによって細かく使い分けられる。

チュクチ語では、相手の質問に対し、肯定・同意の返事をする時は *ii*、否定の返事をする時は *qaramem* を用い、それぞれ英語の Yes と No、日本語のハイとイイエに対応する。また、存在を表わすのに動詞 *wak* が用いられるのに対して、非存在を表わすのに小詞 *ujje* が用いられる。さらに、感情を表わす一部の動詞の否定表現は肯定の動詞と異なる形式をもつ。例えば、動詞「知る」は *layi layak* であるのに対し、「知らない」は *yemo layak* である。これは *layi*、*yemo* という副詞を助動詞と分析的に組み合わせたものである。ただし、本稿では主に否定小詞と否定接辞を用いる否定文について論じることとし、このよ

¹⁾ 本研究は文部省科学研究費補助金(基盤研究(B)(1))「北方諸言語の音声データベース作成と言語変容に関する共同研究」(研究代表者:津曲敏郎、課題番号:1041019)、同(国際学術研究)「環太平洋の危機に瀕した原住民言語にかんする緊急調査」(研究代表者:宮岡伯人、課題番号:10041021)同(特定領域研究(A))「極北シベリアのチュクチ語にかんする緊急調査」(研究代表者:呉人徳司、課題番号:11710281)、同(奨励研究(A))「チュクチ語の形態論に関する記述的研究」(研究代表者:呉人徳司、課題番号:12039216)の援助による成果の一部である。

²⁾ チュクチ語(Chukchi または Chukchee)はアジア大陸北東端(ロシア連邦)、チュコト半島およびその周辺地域で話されている言語である。1989年前の統計によると、母語話者数は約1万人であるが、現在はさらに減少していると思われる。系統的にはコリャーク語(Koryak)、ケレック語(Kerek)、アリュートル語(Alyutor)、イテリメン語(Itelmen)とともに、チュクチ・カムチャツカ語族(Chukotkan-Kamchatkan)に属する。チュクチ語は東部方言と西部方言に分かれるが、コリャーク語などに比べると、方言差が小さいと言われている。なお、本稿は西部方言を対象にしたものである。本稿の執筆にあたり、チュクチ語の知識を提供して下さった話者の方々に感謝の意を表わしたい。本稿で扱う西部方言の音素には長母音話 *i*, *e*, *a*, *u*, *o*, *ə*、長母音 *ii*, *ee*, *aa*, *uu*, *oo*、子音 *p*, *t*, *k*, *q*, *ʔ*, *s*, *y*, *w*, *j*, *r*, *l*, *m*, *n*, *ŋ* がある。

うな語彙的に定まった否定表現は扱わない。

チュクチ語の否定表現に関する先行研究として、ボゴラス (Bogoras 1922:779, 821-822, 882-884) は否定を表わすのに小詞と接辞という2つの方法によることは指摘しているが、概略的な記述にとどまっており、両者の機能的相違性については言及していない。スコリク (Skorik 1977:127-134) は、接辞による否定表現について、かなり詳しく記述しているが、否定小詞 (否定禁止を表わす *anŋe* を除く) による否定表現には触れてない。このほか、ネジャルコフ (Nedjalkov 1994: 281-282, 326-328) は、否定小詞と否定接辞を取り上げているが、両者の使い分けおよび機能的違いを明らかにしていない。

本稿では、否定小詞を用いる否定表現と否定接辞を用いる否定表現について考察し、その用法と特徴などを概観する。

1. 否定文の構造

チュクチ語には否定小詞を用いるか否定接辞を用いるかによって、次のような3つの異なる否定様式がある。

- a. 否定小詞 (法・人称) -動詞語幹- (人称・アスペクト)³⁾
- b. 否定接辞-動詞語幹-否定接辞 (法・人称・時制) -助動詞- (人称・時制・アスペクト)
- c. 否定接辞-動詞語幹-分詞の接辞-格・数

a は否定小詞と述語動詞から構成されたものであり、否定小詞は述語動詞に先行する。否定小詞のうち *wanewan*、*ellə*、*qəram* が用いられる場合、述語動詞は命令法による活用変化をする。b は動詞語幹に否定接辞を付加し、さらに助動詞を分析的に組み合わせたものである。c は動詞語幹に否定接辞、またさらに分詞を派生する接辞を付加したものであり、全体では一語をなしている。

ここでまず、いくつかの例を見てみたい。

- (1a) *wanewan n-ʔal-et-yʔen*
否定 命令・3-雪-動詞化-3単主・完了体
「雪が降らなかった」
- (1b) *ellə n-ʔal-et-yʔen*
否定 命令・3-雪-動詞化-3単主

³⁾ チュクチ語では、直説法を表わす特別なマーカーがない。直説法の文に関しては、グロスにゼロ形態素 (∅-) を記入するのが適当であるが、便宜のため本稿では省略する。

「同上」

- (1c) *luŋ-ʔəl-et-e* *y-il-lin*
否定-雪-動詞化-否定 過去-助動詞-3 単主

「同上」

- (1d) *luŋ-ʔəl-et-ə-lʔ-ə-n*
否定-雪-動詞化-挿入-否定-分詞-絶単

「同上」

- (1e) *ʔəl-et-ke* *y-il-lin*
雪-動詞化-否定 過去-助動詞-3 単主

「同上」

この5つの例はすべて、過去において「雪が降る」という事態が起こったことを否定している点では同じである。しかし、(1a)(1b)では、否定小詞が用いられ、(1c)(1d)(1e)では否定接辞が用いられ、細かい使い分けがなされている。以下では、否定小詞、否定接辞それぞれについて見ていく。

2. 否定小詞の種類と使い分け

チュクチ語では、過去および現在の出来事に対する否定と未来の出来事に対する否定はそれぞれ異なる小詞によって表わされる。小詞のうち *wanewan*、*qəram*、*ella* が用いられる場合、述語動詞は必ず命令法による活用変化をする。また、否定小詞すべてが述語動詞に先行する。

1) *wanewan*

wanewan は、通常、過去の出来事に対する否定を表わす時は、人称によって異なる振る舞いをする。すなわち、1人称が主語に立つ場合は、過去の出来事に対する聞き手の質問に応答する形での一般的な否定の平叙文にのみ用いられるが、その際、(話者によって)予想あるいは願望されたにもかかわらず実現されなかったという意味合いをもつ。例えば、次の(2a)の疑問文に対して、(2b)は否定の返事である。

- (2a) *ya-qametwa-jyət* ?
過去-食べる-2 単主
「あなたは食べた？」

- (2b) *wanawan* *m-ə-qametwa-yʔak*
否定 命令・1 単主-挿入-食べる-1 単主・完了体

「私は（食べたかったのに）食べなかった」

3人称が主語に立つ場合には、否定の平叙文以外に否定疑問文に用いられる。次の(3)は否定の平叙文、(4a)は否定疑問文、(4b)はその答えである。(4a)と(4b)の構成要素はまったく同じである。

- (3) *gewasqet-Ø wendləyi wanewan n-ə-walom-yʔan*
女性-絶単 それでも 否定 命令・3-挿入-聞く-3単主・完了体
「女性はそれでも聞かなかった」
- (4a) *ekke-t wanewan n-elkəl-ninet ?*
息子-絶複 否定 命令・3-知る-3単主3複目・完了体
「彼は息子たちを知らなかった？」
- (4b) *ekke-t wanewan n-elkəl-ninet*
息子-絶複 否定 命令・3-知る-3単主3複目・完了体
「彼は息子たちを知らなかった」

wanewan は2人称が主語の場合には、否定疑問文にのみ用いられる。

- (5) *wanewan q-ə-qaa-rer-ye ?*
否定 命令・2-挿入-トナカイ-探す-2単主・完了体
「あなたはトナカイを探さなかった？」
- (6) *wanewan q-ə-lʔu-yən kʔeli-Ø ?*
否定 命令・2-挿入-見る-2単主3単目・完了体 帽子-絶単
「あなたは帽子を見なかったか？」

wanewan はまた、コンテキストによって、現在時制における出来事を否定するという用法もある⁴⁾。次の例は民話の中で現われた文である。

- (7) *wanewan ʔenquliŋ-u m-ə-ly-ə-net*
否定 怖がる-様態 命令・1単主-挿入-助動詞-挿入-3複目
「私は彼らを怖がっていない」

⁴⁾ ネジャルコフ(Nedjalkov 19094:327)もこの用法について指摘している。

2) *ellə*

ellə は *wanewan* 同様、過去および現在の出来事に対する否定を表わす。ただし、*wanewan* のように、(話者によって) 予想したあるいは望んだのに実現されなかったという意味合いはなく、単に客観的な否定を表わす。また、1人称および3人称が主語に立つ場合は、否定の平叙文に用いられるが、一方、2人称が主語に立つ場合は、否定疑問文にのみ用いられる。

- (8) *ellə m-ə-yite-yʔen aŋqə-Ø*
 否定 命令・1単主-挿入-見る-3単目・完了体 海-絶単
 「私は海を見なかった」
- (9) *allʔa-ta ekək-Ø ellə n-ə-nəlquten-nin*
 母-能 息子-絶単 否定 命令・3-挿入-立たせる-3単主3単目・完了体
 「母は息子を立たせなかった」
- (10) *allon-Ø ell n-ə-qametwa-yʔan. kale-wetyaw-ə-rkən*
 彼-絶単 否定 命令・3-挿入-食べる-3単主・完了体 本-読む-挿入-現在
 「彼は食べていない。本を読んでいる」

次の2例 (12a) (12b) では、*wanewan* と *ellə* の否定の意味合いの違いを見られたい。
 (11) は疑問文である。

- (11) *yə-nan lʔu-yʔen-Ø ŋinqeŋ-Ø?*
 あなた-能 見る-3単目-過去 少年-絶単
 「あなたは少年を見た？」
- (12a) *wanewan m-ə-lʔu-yʔen ŋinqeŋ-Ø*
 否定 命令・1単主-挿入-見る-3単目・完了体 少年-絶単
 「私は少年を(見たかったのに)見なかった」
- (12b) *ellə m-ə-lʔu-yʔen ŋinqeŋ-Ø*
 否定 命令・1単主-挿入-見る-3単目・完了体 少年-絶単
 「私は少年を見なかった」

(11) の疑問文に対して、(12a) のように *wanewan* を用いた場合は、*ŋinqeŋ* 「少年」を「本当は見たかったのだが、見られなかった」という意味合いが含まれている。これに対して、*ellə* を用いた (12b) では、*ŋinqeŋ* 「少年」をただ単に「見なかった」という感情的にはニュートラルな意味合いしかない。

ella はまた、否定の接周辞 *e-...-ke/a-...-ka* とともに用いられることも可能である。ただし、この場合には、述語動詞は命令法をとらず、語幹に *e-...-ke/a-...-ka* が付与される。例えば、次の2例のように、述語動詞は否定接周辞をとることも (13a)、命令法の活用をすることも (13b) いずれも可能である⁵⁾。

(13a) *allon-Ø ella e-jiyr-ə-ke*
 彼-絶 否定 否定-喉が渴く-挿入-否定
 「彼は喉が渴いていなかった」

(13b) *allon ella n-ə-jiyr-yʔen*
 彼-絶 否定 命令・3-挿入-喉が渴く-3単主・完了体
 「彼は喉が渴いていなかった」

ella は2人称が主語に立つ場合には、否定疑問文にのみ用いられる。例えば、次の否定疑問文 (14a) とその答えの (14b) 否定文を比較されたい。主語が2人称の場合には疑問文に、1人称の場合にはその答えとしての否定の平叙文である。

(14a) *ella q-ə-pela-yən qora-ŋəʔ*
 否定 命令・2-挿入-残す-2単主3単目・完了体 トナカイ-絶単
 「あなたはトナカイを残さなかったか？」

(14b) *ella m-ə-pela-yʔan qora-ŋə*
 否定 命令・1単主-挿入-残す-3単目・完了体 トナカイ-絶単
 「私はトナカイを残さなかった」

3) *qərəm*

qərəm は未来の出来事に対する否定を表わす。1人称および3人称が主語に立つ場合には、通常、否定平叙文として用いられる。2人称が主語に立つ場合には、否定疑問文にも用いられる。また、否定平叙文に用いられる場合もあるが、そのときには不可能性を表わす。

次の (15a) の疑問文に対して (15b) は、その答えとしての否定文である。一方、(16) は3人称に対する否定文である

⁵⁾ ただし、筆者の調査ではインフォーマントにより、いずれの形も使う人もいれば、一方の形しか使わない人もおり、一定していない。

- (15a) *yə-nan əllon-Ø re-lʔu-ŋ-ə-n*
 あなた-能 彼-絶 未来-見る-未来-挿入-3 単目・完了体
 「あなたは彼を見るだろう？」
- (15b) *qərəm m-ə-lʔu-yʔen əllon-Ø*
 否定 命令・1 単主-挿入-3 単目・完了体 彼-絶
 「私は彼を見ないだろう？」
- (16) *ə-nan qərəm n-ə-nu-nin anneen-Ø*
 彼-能 否定 命令・3 -挿入-食べる-3 単主 3 単目・完了体 魚-絶単
 「彼は魚を食べないだろう？」

qərəm は 2 人称が主語の場合、否定疑問文に用いられる。次の (18) (19) はその例である。

- (17) *qərəm q-əpak-we*
 否定 命令・2 -飲む-2 単主・完了体
 「あなたは飲まないだろう？」
- (18) *qərəm q-ə-lʔu-yən ŋinqeŋ-Ø*
 否定 命令・2 -挿入-見る-2 単主 3 単目・完了体 少年-絶単
 「あなたは少年を見ないだろう？」

2 人称が主語の場合、*qərəm* により否定の平叙文が形成されると、述語動詞が表わす動作・行為に対する不可能性を表わす。次の例を参照されたい。

- (19) *qərəm q-ə-ŋp-ə-yən*
 否定 命令・2 -挿入-着る-挿入-2 単主 3 単目・完了体
irʔ-ə-n
 毛皮の上着-挿入-絶単
 「あなたは毛皮の上着を着ることはできない」
- (20) *mesənkə qərəm q-ə-rʔe-yi. amənan*
 結構 否定 命令・2 -挿入-起きる-2 単主・完了体 ただ
rəyɾəy-ə-t təlɾi-yʔet-Ø
 毛-挿入-絶複 抜け落ちる-3 複主-過去
 「あなたには何も起きないだろう。ただ毛が抜け落ちただけだ」

4) *samʔam*

samʔam は *qərəm* と同様に未来の出来事に対する否定を表わす。ただし、*wanewan*、*ellə*、*qərəm* のように、述語動詞が必ずしも命令法をとるとは限らない。

- (21) *samʔam t-ə-ra-nm-ə-ŋ-ə-n*
 否定 1 単主-挿入-未来-殺す-挿入-未来-挿入-3 単目・完了体
 「私は彼を殺さないだろう」

samʔam はしばしば、*arʔala* 「まったく」という副詞とともに用いられ、否定の意味が強調される。

- (22) *arʔala samʔam mət-ra-nm-ə-ŋ-ə-n*
 まったく 否定 1 複主-未来-殺す-挿入-未来-挿入-3 単目・完了体
 「私は彼をととても殺すことはできないだろう」

5) *ənye*

ənye は上述の3つの否定小詞 *wanewan*、*ellə*、*qərəm*、*samʔam*⁶⁾ とは異なり、強制的な否定命令、すなわち禁止を表わすのに用いられる。単独では現われず、常に述語動詞語幹に付加される否定接辞 *e-...-ke/a-...-ka* とともに用いられる。

- (23) *ənye esuut əməʔo e-ret-jiw-ke. nely-ə-n*
 否定 ただ すべて 否定-持つてくる-程度-否定 毛皮-挿入-絶単
lewət-ti yətka-t q-ə-pela-rk-ə-net
 頭-絶複 足-絶複 命令・2-挿入-残す-未完了体-挿入-3 複目
 「すべてを持つてくるな。毛皮、頭、足を残しなさい」

- (24) *əlləy-ə-n ənye a-yt-ə-ka. əŋjin masənan*
 父-挿入-絶単 否定 否定-連れてくる-挿入-否定 このように 結構
n-ə-twa-rk-ə-n
 命令・3-挿入-いる-3 単主・未完了体
 「父を連れてくるな。そのまま住まさせておけ」

⁶⁾ ネジャルコフ (Nedjalkov 1993:326-328) はこれ以外に *mewan* という否定小詞を取り上げているが、筆者がこれまでに行なった西部方言の調査では確認されていない。

3. 否定接辞の種類と使い分け

否定接辞には *e-...-ke/a-...-ka* と *luy-...-te/loy-...-ta* の2種類がある。以下ではそれぞれの具体的な使用方法について見ていく。

1) *e-...-ke/a-...-ka*

e-...-ke/a-...-ka は次に述べる *luy-...-te/loy-...-ta* のような時制の制限はなく、過去、現在、未来いずれの時制対しても用いられる。また否定小詞のように、聞き手の質問に答える際にのみ用いられるという制限もなく、平叙文、疑問文のいずれにも用いられる。

母音調和の規則により、付加される動詞語幹が弱形態の場合は *e-...-ke*、強形態の場合は *a-...-ka* が付加される。動詞語幹が母音で始まる場合には、*e/a* が脱落する。

- (25) *yəm-∅ jep a-qametwa-ka*
私-絶 まだ 否定-食べる-否定
「私はまだ食べていない」
- (26) *allon-∅ a-kʔale-jp-ə-ka yəto-yʔe-∅*
彼-絶 否定-帽子-かぶる-挿入-否定 出る-3単主-過去
「彼は帽子をかぶらないで出て行った」
- (27) *iʔam orw-ə-tkən-ə-k e-jəŋe-ke?*
どうして 櫓-挿入-上-挿入-所 否定-積む-否定
「どうして櫓の上に積まないの？」
- (28) *iʔam yə-nan e-yənrit-ke ŋelwəl-∅?*
どうして あなた-能 否定-守る-否定 トナカイの群れ-絶単
「どうしてあなたはトナカイの群れを守らないの？」

e-...-ke/a-...-ka は否定命令（禁止）を表わすこともある。その際に必ずしも義務的ではないが、副詞的機能をもつ *ewne-/awna-*「何も」という接頭辞とともに用いられることが多い（ただし、母音連続を避けるために先頭の *e/a* が脱落し、*wne-/wna-* になる）。

- (29) *q-ə-rayt-ə-ye nota-jpə*
命令・2単主-挿入-帰宅する-挿入-2単主・完了体 ツンドラ-奪
e-lejw-ə-ke
否定-歩く-挿入-否定
「家に帰りなさい。ツンドラをふらふらするな」

- (30) *opopə a-wna-qametwa-ka mən-saj-paw-mək*
 むしろ 否定-何も-食べる-否定 命令・1 複主-お茶-飲む-1 複主・完了体
 「むしろ何も食べないで、ただお茶を飲もう」

なお、*e-wne-...-ke/a-wna-...-ka* には、上述の否定小詞 *ənye* のような強制的な否定命令（禁止）の意味合いはなく、聞き手に対する希望を表わすというニュアンスがある。

e-...-ke/a-...-ka が動詞語幹に付加された否定形は時制も人称も標示しない。それらを標示する必要があるば、自動詞の場合は *it* 「いる、ある」、他動詞の場合は *rat* 「もつ」という助動詞を用い、活用変化させる。

- (31) *allon-Ø ekwet-ke r-it-y?e yə-nəkə*
 彼-絶 出かける-否定 未来-助動詞-3 単主・完了体 あなた-向
r-?atsa-y?a
 未来-待つ-3 単主・完了体
 「彼は出かけないだろう。あなたを待たせよう」
- (32) *e-l?u-ke rən-nin-Ø⁷⁾ ɲinqej-Ø*
 否定-見る-否定 助動詞-3 単主 3 単目-過去 少年-絶単
 「彼は少年を見なかった」

e-...-ke/a-...-ka が付加された名詞語幹に分詞形成接尾辞 *-l?* がつくと、否定の意味をもつ分詞が派生されるが、その際、この接尾辞の後半部 *-ke/-ka* の母音 *e/a* が脱落する。

- (33) *allon-Ø ənkə a-twetsatwa-k-l?-en*
 彼-絶 そこに 否定-立つ-否定-分詞-絶単
 「彼はそこに立っていない」
- (34) *allon-Ø e-k?eli-k-l?-in ekwet-y?i-Ø*
 彼-絶 否定-帽子-否定-分詞-絶単 出かける-3 単主-過去
 「彼は帽子をかぶらないで出かけた」

(2) *luŋ-...-te/loŋ-...-ta*

luŋ-...-te/loŋ-...-ta は動詞語幹に付加されて、過去の出来事に対する否定を表わす。母音調和の規則により、動詞語幹が弱形態の場合は *luŋ-...-te* が付加され、強形態の場合

⁷⁾ *rat* は *rən* に変化したのは、*r* → *n* / *_n* という逆行同化によるものである。

合は *loy-...-ta* が付加される。また、動詞語幹末尾が閉音節の場合は、後半部 *-te/-ta* の *t* が脱落し *-e/-a* になる。

- (35) *allon-Ø loy-qaa-yənret-e*
 彼-絶 否定-トナカイ-守る-否定
 「彼はトナカイを守らなかった」
- (36) *muri-Ø loy-oon?-ə-nta-ta em-il-et-ə-te*
 我々-絶 否定-ベリー-挿入-動詞化-否定 理由-雨-動詞化-挿入-理由
 「雨が降るから、我々はベリーを摘みに行かなかった」
- (37) *gewəsqet-Ø luŋ-puture-te rayt-ə-γ?e-Ø*
 女の子-絶単 否定-踊る-否定 帰宅する-挿入-3単主
 「女の子は踊らないで帰宅した」

luŋ-...-te/loy-...-ta を動詞に付加される否定形は時制も人称も標示しない。それらを標示する必要がある場合には、*e-...-ke/a-...-ka* と同様に、自動詞の場合には *it* 「いる、ある」、他動詞の場合は *rat* 「もつ」という助動詞を用い、活用変化させる。

- (38) *luŋ-yite-te t-ə-nt-γ?en-Ø ŋelwəl-Ø*
 否定-見る-否定 1単主-挿入-3単目-過去 トナカイの群れ-絶単
 「私はトナカイの群れを見なかった」
- (39) *em-teŋ-yənrit-e ŋelwəl-Ø loy-qaa-təmŋew-a*
 原因-よく-守る-原因 トナカイの群れ-絶単 否定-トナカイ-なくす-否定
it-γ?et-Ø
 助動詞-3複主-過去
 「彼らはトナカイの群れをよく守ったので、トナカイをなくさなかった」

luŋ-...-te/loy-...-ta が付加された動詞の否定形にさらに分詞形成接尾辞 *-l?* がつくと、否定分詞が派生されるが、その際後半部 *-te/-ta* は脱落する。

- (40) *luŋ-er?-u-l?-ə-jyəm*
 否定-茹で肉-食べる-分詞-挿入-1単主
 「私は肉を食べなかった」
- (41) *kətwəlqun luŋ-qupqu-w?i-l?-ə-turi*
 やっと 否定-衰弱する-死ぬ-分詞-挿入-2複主

「あなたたちはよく衰弱して死ななかつたね」

4. おわりに

以上、チュクチ語の動詞の否定表現に関し、筆者がこれまでの現地調査でえた資料に基づいて、否定小詞を用いる否定表現と否定接辞を用いる否定表現を取り上げ、両者の用法および特徴について論じた。本稿での記述を通じて、否定小詞と否定接辞は無条件に用いられるものではなく、色々な制約があることがわかった。すなわち、動詞が表わす動作・行為を否定するにあたって、過去、現在、未来という3つの時制に応じて、否定小詞と否定接辞が細かく使い分けられている。また、否定小詞は3つの人称に応じて用いられる状況が異なっている。

本稿は先行研究を補う一つの試みに過ぎない。今後はより多くの資料を収集し、再確認するとともに、同系統の言語における否定表現との比較研究を進める必要がある。

【略号】

1 = 1 単主	3 = 3 単主	複 = 複数	目 = 目的語	能 = 能格	奪 = 奪格
2 = 2 人称	単 = 単数	主 = 主語	絶 = 絶対格	向 = 向格	

【参考文献】

- Bogors, Waldemar 1922 Chukchee, in F. Boas (ed.) *Handbook of American Indian Languages*, Part 2. Bureau of American Ethnology, Bulletin 40, Government Printing Office, Washington D.C. 631-903.
- 呉人徳司[特古斯] 1995a 「チュクチ語の西部方言の音韻論」『言語学研究』第14号、京都大学言語学研究会、165-197。
- 1995b 「チュクチ語テキスト(1)」『北海道立北方民族博物館紀要』第6号、北海道立北方民族博物館、31-67。
- 1996 「チュクチ語テキスト(2)」『北海道立北方民族博物館紀要』第6号、北海道立北方民族博物館、1-30。
- Nedjalkov, Vladimir P. 1994 Tense-Aspect-Mood forms in Chukchi, *Eurotype Working Papers*, Sprachtypol University. Forsch. (STUF) 47. 278-358.
- Skorik, Petr Ja. 1977 *Grammatika Chukotskogo Jazyka*, II, Izdatel'stvo <Nauka> Leningrad.

On the Negation in Chukchi

Tokusu KUREBITO

(Tokyo University of Foreign Studies)

The present paper aims to describe the negation in Chukchi. In Chukchi there are two major ways of expressing negation: by means of negative particles and by means of negative affixes. Chukchi has five special negative particles which are all preceded by the predicate verb: *wanewan*, *ellə*, *qərəm*, *samʔam*, *ənje*. *wanewan* and *ellə* are used for the negation of past and present tense, while *qərəm* and *samʔam* are used for the negation of future tense. *ənje* is used for the negative imperative. Chukchi also has two negative affixes: *luŋ-...-te/loŋ-...-ta* and *e-...-e/a-...-ka*. The former is used for the negation of past tense only, while the latter is used for the negation of any tense. The negated lexical verb is not inflected for mood, tense, aspect and so on, instead the auxiliary verbs, *it* for intransitive and *rət* for transitive, are inflected for these categories.